ＢＰファシリテーター体験記　**石川県白山市**

「孤育て」解消の一助となることを願って

認定NPO 法人おやこの広場あさがお　**川上 由枝**

『認定NPO 法人おやこの広場あさがお』のあゆみ

当広場は、「敬宮愛子様ご誕生記念親子よろこびの広場事業」として、石川県からの事業委託を受けた公益財団法人いしかわ子育て支援財団が2002年に開設しました。かつての市中心商店街に位置するショッピングモールの空スペースを活用したこの広場の誕生には、商店街の賑わい創出という地域活性化の期待も含まれたものでした。（その後平成20年より現在の複合施設に移転）こうして県行政主導の運営による記念モデル事業としてスタートした後、2005年には運営組織を NPO法人化し、現在は地元行政からの委託を受けて各種事業を行っているところです。

各地区の子育て拠点施設同様、子育て中の親と子の一番近くで、それぞれの思いに寄り添う場としての広場事業(運営)を中心に、「一時預かり」「育児サークル支援」「父親支援」「世代間交流」「夫婦支援」「訪問支援」等、地域のニーズや課題を掴み応えながら「利用者の皆さんと一緒に創る広場」を念頭に、様々な活動を展開しています。特に地域との交流・連携については強く意識しており、学校（中学・高校・大学）や商店街・企業などと積極的にかかわってきた結果、当広場（法人）活動への理解だけでなく、子ども・子育ての現状などについても一層関心を深めてもらえるようになったと感じています。最近では他分野の組織・団体から子育てに関する相談や依頼を受けることも多くなってきており、これもその成果の一つと受け取っています。

ＢＰプログラム導入の背景

スタッフ間では普段からケース検討やニーズ分析などの議論を重ねていましたが、最近は「もっと切れ目のない支援ができないか」が大きなテーマとなっていました。講座、教室、交流イベント等、多くの催しや支援活動を行ってきましたが、相互の関連性や継続性が欠けているような、コマ切れになっているような感覚もあったのです。そこで、子育て期の流れに沿って課題の再整理を行いながら、各活動が「線」になるよう全体の事業を見直すことにしました。

その一つとして平成23年度から行っている妊娠期の夫婦を対象とした「プレパパ・プレママ講座」の参加者がその時期から出産、子育てとつながっていけるような支援の取組みを考えました。参加者の実際の感想からも「その後、広場の利用がし　やすい」「いつでも相談できる場所が知れて安心」と、出産後の不安解消につながっている声も多数あり、対象者と早期に関係性を継続していくことの大切さを実感していました。この流れを受けて実施できるしっかりとした受け皿（プログラム）を模索していた時に知ったのがこのBPプログラムでした。運よくアシスタントとして実際のプログラムを見学できる機会にも恵まれ、子育て初体験となるこの時期に提供することの意味の大きさを改めて感じたこともあり実施導入を決意しました。

BPファシリテーター養成講座を受講して

２日間の養成講座はかなり凝縮された内容で、中身の濃いものでした。既に実施してきたNPプログラムとは名称こそ似ていますが、全く別のプログラムであるということを改めて感じただけでなく、参加者にとってもファシリテーターにとっても、安心安全がしっかりと担保されているということ、よく考えられてコンパクトにまとめられているな…というのがプログラムの印象でした。赤ちゃんと一緒に参加するプログラムなので、託児やお茶の準備が必要ではないこと、場所や経費もコンパクトに抑えられ、すぐに実施しやすいことが有難いところでした。

実施する際には、黒子に徹しながらも、参加者一人一人の思いに触れ（尊重し）、母親になって間もない時期の様々な思いを受け止めてあげられる存在になりたいと強く思いながら受講しました。

スムーズに進んだ準備過程

今年２月に養成講座修了後すぐに、４月初回実施の準備をはじめました。まずは日頃から連携している助産師や保健師、小児科や助産院などにプログラムの目的や意義について説明し、理解を得たうえで対象者への周知協力を求めました。広場としても、利用者を中心に参加を呼びかけ、特に「プレパパ・プレママ講座」参加者にはチラシ送付だけでなく電話等も利用して声かけをしました。

広場スタッフ全員が実施の必要性を共通認識できていたこと、プログラム内容についてしっかり理解できていたこと、普段からの連携により外部協力者が力を貸してくれたことで参加者確保がスムーズだったこと、行政施設を利用できたことで会場費などの経費面も圧縮できたこと等、うまく進行できるか…といった自分自身への不安以外、準備過程は比較的スムーズだったように思います。

「切れ目のない支援」の可能性

いざ実施！そして無事終了！

全４回のプログラムは緊張しながらあっという間に過ぎた感じでしたが、参加者それぞれの思いを大切にして進めるように心掛けました。進行についても、全員の様子を見ながらも一人一人の親子のペースも尊重しました。計画通りの時間配分で行うと無理なく進行できることも実感していきました。母と赤ちゃんが一つの部屋に集まり、時には泣き声もあり、授乳の姿があり、その光景はほほえましく、また、毎回抱っこしながら会場まで歩いてくる様子、帰っていく様子に「プログラムに参加するよ。または参加できたよ」という頼もしさが感じられ、「外出することの不安から自信につながるよい機会になった」「自分が悩んでいたことはみんなも同じだった」「仲間がいてうれしいと感じた」などの言葉は本当に嬉しいものでした。ファシリテーターが特別なことをしなくてもプログラムを通じてそれぞれが「おみやげ」を持って帰られたのではないかと思います。

親子でゆったり、ほっこりするふれあいタイムで“親子の絆”を体験できたところから学びあいのセッションを行う流れはとても進行しやすく、また、テキストやDVD を通じてお母さんを勇気づける沢山のワードも、今すぐにはピンとこなくても、これから様々な場面で実感していくものだと思います。

NPプログラムでもそうですが、参加者主体でグループワークを進めていく際には場の沈黙も恐れずに「待つ」ことも大切なことだと認識して見守りました。今回はお互いに気心も知れた同僚と取組めたことで心強さもありましたが、タイムテーブルに沿った進行や言葉かけが上手くいく基本であると意識すればするほど、それに気をとられ過ぎてぎこちなさがあったなと反省しています。もっと経験も積みながら自分のものにしていかなければと感じています。

また、今回は行政の複合施設（社会福祉協議会、ボランティアセンター、こども相談室、発達相談センターなど）を会場として使用したことは、各機関への良いPRになったのではないかと思います。

一方で驚いた事は、毎回 KKI事務局に提出する報告書に対し、サポーターさんが大変細やかにアドバイスをくださったことです。その丁寧な文章に私自身が励まされ、毎回温かい気持ちでプログラムを進めることができたように思います。大変ありがたいサポートでした。

実施を振り返って～①プログラムに対する感想

実践して感じたことは、参加された母親達の「産後２～３か月までの間がとても孤独で辛かった」という声がたいへん多かったことです。広場では“来てくれるのを待つ”体制ですが、BPプログラムの参加呼びかけはスタッフのアウトリーチにより届けられるもので、この時期の孤独感、不安感の解消につながる大変有効なプログラムであるということを改めて感じました。まさに私達がめざす「切れ目のない支援」の可能性を強く感じました。

また、実際にスタートし、毎回赤ちゃんのお世話をしながら学ぶという同時作業を経験している参加者の姿から、それぞれが「話したい」「知りたい」「聞きたい」「つながりたい」という思いを充分に満たしている様子が感じられただけでなく、母親達の本来持っている力を信じることの大切さに改めて気づかされもしました。

実施を振り返って～②子育て支援者としての感想

安心安全が守られた環境で、同じような月齢の赤ちゃんを初めて育てる母親が集まり、その回数を重ねていく中で、皆さん徐々に不安そうな表情が明るくなっていきます。また、赤ちゃん達の成長がみられます。こうした参加者同士がどんどんエンパワーメントされていく様子を目の当たりにできることは、ファシリテーターとして関われた支援者として何よりの喜びでした。一週間に１回、準備を含めておよそ半日を４回（１か月）続けることは日々の広場業務との兼ね合いもあり、時には追い込まれそうになることもありますが、それ以上に支援者として得られるものが沢山あります。

今後もプログラムをとおして、「母親自身も大切に」「周りの助けも借りながら」ということを伝えていきたいですし、同時に、参加者同士がつながりあい学びあえる関係性がつくれているか、個々の様子・全体の関係性を見極める力など、ファシリテーターとしてレベルアップしていかなければならないと感じています。そしてそういった支援者の意識や質の向上は、普段の広場活動の質を高めることにもつながるはずだと思っています。

これからの実施展開に向けて

今年度よりさっそく、当広場では年間５回の実施を予定しております。

「赤ちゃんが生まれたら参加するプログラム」としてあたりまえに認知されるためにも、対象家庭へ余すことなくしっかりと周知できるためにも、行政には更なる理解を求めつつ連携を深めていきたいと思います。

また、パパネットあさがお（広場利用家庭の父親グループ）等と協働して、ＢＰプログラムと連動した父親側への取り組みについても考えていこうと思っています。

BPプログラム参加後、広場を訪れる親子の姿が見られるようになってきました。様々な子育て支援施策が進められてはいますが、「孤育て」は依然として大きな課題です。早期に仲間と出会い地域の資源を知る（知ってもらう）ことが課題解消の一助になることを信じ、その具体的な方法として今後もBPプログラムを継続実施していきます。